

令和7年度 第2回多治見市障害者計画等策定委員会議事録

日 時：令和8年2月13日（金）

10:00～11:30

場 所：多治見市駅北庁舎4階 第1会議室

出席委員： 安藤 秀章委員、加藤 高志委員、酒井 郁美委員、坂井 能子委員
澁谷 和臣委員、下野 誠司委員、寺澤 幸枝委員、長沼 邦雄委員
西田 葉子委員、前田 未知子委員、松田 あさみ委員、森川 倫江委員
(50音順)

欠席委員： 中村 博委員、野々垣 直美委員

事務局： 金子市民福祉部長、島津福祉課長
加藤こども健康部長、伊藤こども家庭課長
福祉課 金子、水野恵、水野ひ
こども家庭課 小久保、渡邊

議題：(1) 障がいのある方等の福祉に関するアンケート調査結果報告
(2) 今後のスケジュール

福祉課長 | (開会・会議成立の報告)

委員長 | 3月開幕のパラリンピックに、多治見市からアイスホッケーで出場される方があり、壮行会に出席してきた。障がい者スポーツへの理解が広がっているように感じる。政策にもつなげていけたらと思う。
この会議は多治見市情報公開条例に基づき公開とする。
議事録は事務局で作成し、委員の皆さんに確認いただき委員名を伏せてホームページで公開する。
事務局から資料の確認について説明をお願いします。

事務局 | (各資料について説明)

- ・アンケート調査結果の概要（資料1）
- ・アンケート調査結果からみえてきた課題（資料2）
- ・アンケート調査結果自由意見（抜粋）（資料4）
- ・意見交換会における主な意見の概要（資料5）

議題(1) 障がいのある方等の福祉に関するアンケート調査結果報告

委員長 | 事務局の説明を受けて、皆さんから次期計画での重点課題、取り組むべき施策などについて意見をいただく。
私からは3点について述べる。
1点目は、選挙での投票について、
認知症や知的の方で、自分で候補者の名前を書けない人などに対して、どこまで支援できるかということ。
2点目は、運転免許の更新時の高齢者に対する認知症試験について、
タブレットによる試験で、ヘッドホンで内容を聞き取る方法で実施されるの

で、聴覚障がいの方は、音声聞き取れないため、その場で試験を受けることができなかつたことがある。

3点目は、視覚障がいの方のプール利用について、岐阜市には障がい者専用プールがあるが、市内にはない。そのため、市内の民間のプールを利用すると他の利用者に触ってしまうことがある。

委員 市内に就労継続支援B型事業所が増えてきた。働く場所が増えてきて良いことだと思う。
国も就労率を上げるといっているが、一般就労の壁は高い。

委員 一般就労を目指す生徒は、支援学校卒業後、就労継続支援A型事業所の希望が多い。次いで、就労継続支援B型事業所が多い。経験を積んで、一般就労を目指す方が多い。

委員 市内には障がい者を多く雇用されている食品スーパーがある。

委員 成年後見制度の認知度が低い。制度説明の依頼があれば積極的に出向き、年1回はシンポジウムを開催し周知している。認知度をあげるための方法を考えていかないといけない。

委員 アンケートを通して、市民の方の意見が聴けてよかった。アンケートでは、今後、利用したいサービスとして「相談支援事業所」が多かった。相談支援のニーズは高いが、相談支援専門員が増えない中での対応を検討していく必要がある。

委員 支援クラスに通えないグレーゾーンの子の対応を考える必要がある。中学卒業後の進路を選択する際、手帳がない場合は、支援学校ではなく、一般の高校に就学することになるが、在籍途中で手帳取得の相談を受けることがある。早い段階から支援機関と連携していくことが大事である。

委員 各務原市は障がい重い生徒も選挙に行くことができた。不登校の児童生徒は支援学校においても増えてきている実感がある。不登校の場合でも、保護者とのつながりはあるので、相談支援事業所につなぐ等のサポートをしている。親なき後の問題が深刻である。グループホームに入所して生活できる場合はいいが、グループホームに入所できない状態の場合もある。

委員 就労継続支援B型事業所は工賃が少ない。親が亡くなったら、その後どのように生活していくのか。また、就労継続支援B型事業所に通えなくなる人がおり、どこの事業所にもつながらない人が増えている。つながる先は1つでなく、複数あると良い。相談支援事業所だけでなく、仲間の親、地域の人など、地域福祉が高まると良い。啓発のチラシを多くの人に見てもらいたい。

委員 先日の選挙では、施設利用者の約半数が期日前投票を行った。

市と福祉避難所の協定を結んでおり、防災倉庫を見にきてもらうなど共有できている。

施設としては、地域とのつながりを大切にしている。行事を開催し、多くの地域の方に参加してもらっている。

成年後見制度は、入所者の約2割が利用している状況である。

委員

医療的ケアが必要な子どもが多くいるが、親なき後に確実に入所できるグループホームが近くにないため、多くの親は困っている。

今年から県立多治見病院でショートステイの対応が開始されて良かった。

成年後見制度は具体的な内容は把握していないので、今後、理解を深めたい。

委員

アンケート結果で気になったことは、発達障がいの診断を受けている人が多いこと。手帳不所持の約8割が発達障がいの診断を受けている。

県の発達支援のペアレントメンター事業に参加していると親が子どもの障がいの状態をわかっていないことが多い。また、学校側の対応や、専門の医療機関が少ないことが課題である。

福祉就労と一般就労とでは、収入が全く違う。同じ内容でアンケートをとっているが、課題が見えにくいのではないか。福祉就労は工賃が低い。改善してほしい。

親なき後の本人の居場所について、もっと早い段階から親も取り組む必要がある。関係者を交えての話し合いが必要である。

委員

親なき後の課題について、3月1日に親なき後のお金と住まいについての研修会を開催予定である。

障害者手帳所持者を対象とした就職説明会は多治見市で開催されているかお尋ねしたい。

委員

ミニ企業説明会で行っている。

委員

なかなか浸透していないので、PRに努めていただきたい。

先ほどの選挙の話で、施設入所者の約5割が投票されたということは、良いこと。障がいのある人も個人の権利を全うしてほしい。

福祉の制度は頻繁に変更される。市役所の人事異動も仕方ないことであるが、福祉のエキスパートは長期的に配置していただきたい。

委員長

福祉のエキスパートを配置していただけるとありがたい。

最近では機械の性能がよくなり、工場での手足の切断などの事故が減少し、身体の障がい者も減少傾向にある。

逆に、難病の人は増えている印象がある。

災害時は、福祉センターが避難所となっている。

障がいのある人の避難所はどのくらいあるのか。

事務局

障がい者施設の福祉避難所は9ヶ所、高齢者施設の福祉避難所とあわせて市内に45ヶ所ある。配慮が必要な方の避難所利用については、施設と市で連携して対応する。

なお、先程、選挙の投票において、認知症や知的の方で、自分で候補者の名

前を書けない方などに対して、どこまで支援できているかという問いについては、各投票所で職員が代理記載をする代理投票が可能である。

委員長

様々な障がいや疾病における医療費の助成等の支援は、自治体によって差がある。多治見市の現在の支援は、今後も継続していただきたい。

委員

支援学校で、選挙の投票の練習などは行われているのか。

委員

土岐市役所から投票箱を借りて高等部で投票の体験をしている。

委員

狭い投票所で選挙をすることは、とても緊張するようだ。

事務局

(スペースが広い期日前投票所で選挙をすることができること、不在者投票等、障がいのある方が利用できる選挙制度について紹介。)

委員長

新庁舎建設にあたり、現在の駅北庁舎の地下駐車場を全ておもしろいやり駐車場にする案も以前はあったようだが、一般の方から、反対があったようだ。民間の駐車場を利用できないか。駅は近いが、車の利用者の方が多い。ホワイトタウンでは、地域で送迎サービスを実施している。交通に不便を感じている方は多い。

議題 (2) 今後のスケジュール

委員長

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

(今後のスケジュールについて説明)

委員長

ご質問、ご意見等はないか。

(質疑・意見なし)

委員長

全体を通して、ご意見・ご質問等はないか。

(質疑・意見なし)

委員長

その他、事務局から連絡事項など説明をお願いします。

事務局

(ちらしについて説明)

委員長

これをもって、第2回多治見市障害者計画等策定委員会を終了する。

(閉会)